

“認知症と拘束” 尊厳回復に挑むナースたち

## Restraints in Nursing

執筆 平岩千代子

語り 田中とも江

小藤 幹恵

永田久美子

寄稿 大熊由紀子

前例を超え、前例を創る。

## 前例を超え、前例を創ったナースたち

大熊由紀子

おおくま・ゆきこ ● ジャーナリスト・朝日新聞論説委員、大阪大学大学院教授をへて国際医療福祉大学大学院教授。『寝たきり老人』のいる国いない国』（ぶどう社）は、日本の福祉を変えた本といわれている。

「フ」という発音ができない幼い日から、「カンゴク・チャンになるの」といい続けていた私です。ところが、あまりにうつかりものであることを自覚するようになり、患者さんに迷惑をかけては一大事と、大学では科学史・科学哲学に方向転換しました。そして、医療や福祉を担当する新聞記者になつてしまいました。それでも、ナースへの憧れは消えることなく、たくさんの素晴らしいナースとお近づきになることができました。

「身体拘束をなくし尊厳を守る挑戦をしているナースのライフストーリーを修士論文にしたいのですが」と平岩千代子さんから相談され、すぐに閃いたのが本書の主人公でした。生い立ちがまるであらう。その上、仕事の現場は、精神病院、急性期病院、地域。けれど、この三人がおられなかったら、

日本で認知症になる人の運命は、世界に大きく遅れをとったままになったに違いないのです。

前例を超え、前例を創ったナースは他にも数多くおられます。

## 法律の壁を破る

たとえば、惣万佳代子さんと西村和美さん。

富山赤十字病院の内科病棟から飛び出したのは、退院して老人病院に移ったお年寄りの悲しい姿を見たからでした。おむつをつけられ、はずさないように手足を縛られていました。「人生の最後の場面で泣いている。力になれないだろうか」「そうだ、私たちには、二〇年の看護婦経験がある」。

無謀だと止める人を振り切って、認知症のお年寄りが昼を過ごすデイケアハウスを三人のナースの退職金で建てました。最初の利用者は、思いがけないことに三歳の男の子でした。若い母親は、障害の重いその子をここに預け、三年ぶりに美容院に行くことができました。

そして、幼い子がいることで、場の空気が実になごやかになったのでした。

こうして年齢や障害で縦割りになっている日本特有の法律や面倒な手続きを小気味よくぶちこわす「このゆびとーまれ」が誕生しました。赤ちゃんも、障害のある人も、物忘れの激しいお年寄りも、申し込めばその日から利用でき、必要なら、「お泊まり」も。絵入りの利用案内には「笑いのある楽しいひととき」「年中無休」「手続きも簡略」。一九九三年のことでした。

「障害・児童・老人の三つの法律にまたがっているのだから玄関は三カ所つくるように」「風呂は公衆浴場の法律に触れるからまかりならぬ」。行政は無理難題をつきつけました。

けれど写真のような笑顔・雰囲気に行政の中にも味方が増え、二〇〇三年には「富山型デイサービス推進特区」が認定されて「富山型」は一五県以上に広がりました。二〇一八年には「共生型デイサービス」が制度になり、二〇二〇年には全国二、七一二事業所に増えました。最近では、障害のある若者の働く場づくりにも実績をあげています。

デンマークの高齢福祉政策の父といわれる元福祉大臣、ベント・

ロール・アナセン教授は「我が国も学ばせていただかなければ」とすっかり惚れ込んでしまいました。

### ノーマライゼーションを認知症にも

福岡県大牟田市の病院の看護部長だった大谷るみ子さんも、病院や施設であたりまえになっていた身体拘束に疑問と憤りを感じていました。「デンマークには『寝たきり老人』という言葉がないそうだ。三カ月ほど見てきてはどうだろう」という院長の勧めで一九九六年デンマークを訪ね、「ノ-



(デイケアハウス「このゆびとーまれ」提供)

マライゼーション」という思想に出会いました。

この、「知的障害のある人もない人も、住まいや暮らしや人とのつながりを、同じように味わう」権利がある。社会はそれを実現する「責任」がある」という考え方に基づく「一九五九年法」は、ナチの強制収容所を体験した福祉省の局長、N・E・バンクミケルセンさんが中心になってつくられました。

二〇〇一年にグループホーム「ふあみりえ」のホーム長になったるみ子さんは、ノーマライゼーションを、認知症ケアで実現したいと考え、デンマークから認知症コーディネーター、ミエヤムさんを招いて滞在してもらいました。毎日休むことなく歩き回る老婦人に、ミエヤムさんは「この方は昔、何をしていたのかしら？どんな風に暮らしていたのかしら？」と女性の人生史に目を向けて問いかけました。以来、背景にある人生を理解し、「あなたはとても大切な人」という思いを胸に接するのが、大牟田市の伝統になりました。

認知症の人のところを理解するために、絵本『いつだって心は生きている——大切なものを見つけてよう』をつくりました。行方不明になってしまう祖父、夜になるとにぎり飯をつくり始める祖母、実在の三人のお年寄りを主人公にした物語です。幼稚園児から高校生までが参加して挿絵をつけて完成。これをもとに、るみ子さんたちは毎年小中学校一五〜二〇校をまわって子どもたちと語り合います。これまで二万人の子どもたちが参加しました。デンマークで見た絵本がヒントでした。

大牟田市は、「徘徊SOS ネットワーク模擬訓練く安心して徘徊できるまち」を二〇〇四年に始めたパイオニアとしても知られています。全国各地の自治体にこの名称と方法が広まりました。と

ころが市は二〇一五年、「徘徊」という言葉を使うのをやめてしまいました。「俺たち、徘徊なんてしていない」「本人の目の前で口に出すことを躊躇する言葉は使うべきではない」という声からでした。話し合いをくりかえし、二一の小学校校区の代表が集まって満場一致で決まりました。

### 〃おまかせうんちッチでまちづくり

「うんこ文化センターおまかせうんちッチ代表」を名乗っているナースは榊原千秋さんです。

「気持ちよく出すケア」を合い言葉にしたコミュニティケアの担い手、P、O、O<sup>1</sup>マスター養成に取り組み、二〇二一年夏には全国三九都道府県で四八〇人を超えました。P、O、Oは、幼児が使う英語で「うんち」を意味しています。千秋さんによると、トイレに間に合わない人は全国で五〇〇万人、便秘は一〇〇〇万人、尿失禁は三〇歳以上の女性の三人に一人、下痢と便秘をくりかえす人はストレス社会が増えて四人に一人。だれにも相談できず悩んでいる人はさらに多いのだそうです。P、O、Oマスターは、ナースだけでなく医師、薬剤師、P、T、O、T、S、T、栄養士、介護職、保育士、研究者、ジャーナリストにまで、広がっています。

保健師・助産師、ケアマネジャーの資格をもち、金沢大学で教鞭をとりながらウソコで博士号をとった千秋さんは、「おなかにやさしいは、地域にやさしい」をキャッチフレーズに、まちづくりに活動を広げ、二〇二一年には一般社団法人「日本うんこ文化学会」を設立しました。

## 想像力と度胸と

この四人と本書に登場する三人のナースに共通するのは何でしょうか？

おかしいことを「おかしい」と気づく、場の空気に飲み込まれない、「しかたがない」とあきらめない。解決の方法を探る。病氣や障害に見舞われた人々の身になる想像力。人々を仲間にしてしまう人間的な魅力。

ところで、千代子さんの修士論文の分量は、このブックレットのおよそ三倍ちかくにのぼります。その一節を抜粋します。

一九九九年二月に開かれた医療保険福祉審議会老人保健福祉部会・介護給付費部会の第5回合同部会で、看護協会会長として参加していた故・見藤隆子さんは強調しました。「何より重要なのは、例外をつくらず、拘束をしないと決めることです。決めれば、どうやったらできるかの工夫が始まります」。ところが、見藤さんがこの発言を日本看護協会の役員会で報告すると、全員から総スカンをあびました。それでも見藤さんは、「看護師として身体拘束は絶対やってはいけないことだと思っ」と一歩も引きませんでした。

この「度胸」も七人のナースに共通している基本だと私にはおもえます。

## 「Nursing Todayブックレット」の発刊にあたって

日々膨大な量の情報に曝されている私たちに  
とって、一体何が重要でどれが正しく適切なのかを  
見極めることがますます難しくなっています。

そこで弊社では、看護やケアをめぐるいま社会で  
何が起きつつあるのか、各編集者のさまざまな問題  
意識(テーマ)を幅広くかつ簡潔に発信していく新  
しい媒体、「Nursing Todayブックレット」を企画し  
ました。

あえてウェブでもなく、雑誌でもなく、ワンテ  
マだけの解説を小冊子にまとめる手段を通して、医  
療と社会の間に広がる多様な課題について読者の  
皆さまと情報を共有し、ともに考えていくための新  
たな視点を提案していきます。(二〇一九年六月)

本書についてのご意見・ご感想、著者へのメッセージ、「Nursing Todayブックレット」で取り上げてほしいテーマなどを編集部までお寄せください。 <https://napcdc.com/BLT/m/>



Nursing Todayブックレット・13

## 「認知症と拘束」尊厳回復に挑むナースたち

RESTRAINTS IN NURSING

二〇二一年一月一日 第一版 第一刷発行

〈検印省略〉

### 執筆

平岩千代子

### 発行

株式会社 日本看護協会出版会

〒一五〇一〇〇一 東京都渋谷区

神宮前五―八―二 日本看護協会ビル四階

〈注文・問合せ〉書店窓口

電話：〇四三六二二三二七

FAX：〇四三六二二三二七

〈編集〉電話：〇三三二九七七一

〈ウェブサイト〉<https://www.napcc.co.jp>

デザイン Nursing Todayブックレット編集部

印刷 日本ハイコム株式会社

●本書に掲載された著作物の複製・転載・翻訳・データベースへの取り込み、および送信(送信可能化権を含む)・上映・譲渡に関する許諾権は、株式会社日本看護協会出版会が保有しています。●本書掲載のURLやQRコードなどのリンク先は、予告なしに変更・削除されることがあります。

【COPY】出版者著作権管理機構委託出版物〈本書の無断複製は著作権法上の例外を除き禁止されています。複製される場合は、その都度事前に一般社団法人出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088 / FAX 03-5244-5089 / e-mail: info@copy.or.jp)の許諾を得てください。〉

© 2021 Printed in Japan ISBN978-4-8180-2358-1